

---

# 御徒町樹里ちゃんがゆく外伝～神戸蘭警部の独り言（四百文字お題小説）

りったん（またの名を神村律子）

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

御徒町樹里ちゃんがゆく外伝（神戸蘭警部の独り言（四百文字お題小説）

### 【Nコード】

N4289BA

### 【作者名】

りったん（またの名を神村律子）

### 【あらすじ】

いつものとおりのお題小説です。

(前書き)

沢木先生のお題に基づくお話です。

拙作「御徒町樹里ちゃんがゆく」の登場人物である神戸蘭の独り言です。

「おひとりさま」「サングラス」「さわやかな色気」をお借りしました。

私は神戸蘭。警視庁の警部。

踏んだヤマは数知れず、逮捕したホシも数知れず。

そんな私が真剣に付き合った杉下左京。人の顔を忘れる天才。

脳が溶けているのだろうか？

G県警M署の副署長をしていた時、久しぶりに会ったのだが、見事に私を忘れていた。

百年の恋も冷めた気がした。

その左京が惚れたのが人をイラッとさせる天才の御徒町樹里。

確かに可愛いし性格は穏やかだし若いしさわやかな色気もあるし……。

何も勝てる要素がない。

一番ショックだったのは、左京が樹里との結婚を私に教えてくれなかった事。

一度は結婚まで考えた仲だったのに、その仕打ちはないと思った。

そして私は「おひとりさま」人生を再開したのだが……。

「どうしたんですか、神戸警部？」

部下の平井拓司警部補が声をかけてくれた。私の現在の恋人だ。

「別に何でもないわ、たっくん」

彼にもらったサングラスをかけ、私は樹里に負けないくらいの笑顔で応じた。

さあ、今日も仕事、頑張るぞ！

(後書き)

お粗末でございました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4289ba/>

---

御徒町樹里ちゃんがゆく外伝～神戸蘭警部の独り言（四百文字お題小説）

2012年1月11日15時54分発行